

親和銀行創業130周年事業「親和銀行コレクション展」開催中

親和銀行創業130周年事業

本年2月15日に創業130周年を迎えた親和銀行(1879年、現在の平戸市に前身の第九十九国立銀行として設立)では、創業130周年を記念して、「おかげさまで130周年。これからも地域とともに。」をキャッチフレーズに、各種イベント事業を開催しています。

これまでに「長崎の唄・長崎の音～希(のぞみ)」(ながさき音楽祭)への協賛(08年9月)、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を支援する「教会コンサート」への協賛(08年10月)、「第60回長崎県民体育大会」への支援(08年11月)等を実施してきました。

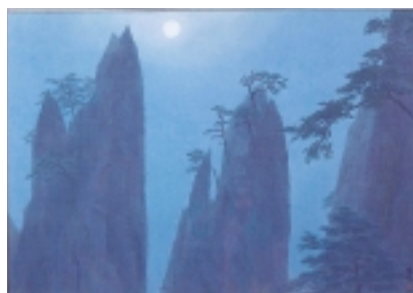
今回も記念事業の一環として、親和銀行が所蔵する美術品を、「親和銀行コレクション展」として4月23日より長崎県美術館(長崎市)で公開しています。



4月23日のオープニングセレモニー

「コレクション展」の見所

「親和銀行コレクション展」は四部構成で展示しています。第一部では「近現代の作家たち」と題して、明治期以降の洋画・日本画・彫刻などを中心に展示しています。山本森之助、横手貞美、野口彌太郎といった長崎ゆかりの画



東山魁夷《月明》1979年

家をはじめ、岡田三郎助、梅原龍三郎、藤田嗣治、東山魁夷、平山郁夫などの著名な作家の作品も展示しています。

第二部は「古伊万里を中心とした肥前の陶磁器」の展示です。江戸時代に生産された「柿右衛門」や「金襴手」など、様々な古伊万里を展示しています。特に肥前の地で代々続く、柿右衛門・太郎右衛門・今右衛門の作品の美と技が結実した作品をご堪能いただけます。

第三部はキリストや聖母マリア、聖人などを描いたイコン(聖像)を展示する、「イコンの世界」をテーマにしています。国内ではイコンの展示は珍しく、実際に教会内で使用されていたものもあり、蝋燭で焼け焦げた後や蠟の塊が生々しく残っています。



《最後の晩餐》1800年頃

第四部は親和銀行の本店本館、別館(懐膏館)、大波止支店、旧東京支店の建築設計者である白井

晟一を紹介する「親和銀行と白井晟一」です。白井晟一の代表的な建築物である本店を見学に訪れる人々は今も絶えません。今回はパネル等により親和銀行の建物を紹介するとともに、白井氏が建物に合わせて揃えた椅子等の調度品も展示しています。

最後に

親和銀行では、地方の貴重な文化財の散逸を防ぎ、かつ未来への遺産として残すことを目的として、郷土芸術家や著名画家の作品を中心に収集・収蔵してまいりました。今回、美術館での一般公開は初の試みとなりますが、厳選された親和銀行のコレクションは、長崎が誇る素晴らしい美術館の中でより一層の輝きを放っています。お蔭様で、公開開始からゴールデンウィーク終了までの累計入場者は5,000人を超え、多くのお客様にご来場いただきました。今年の7月26日まで開催しておりますので、是非この機会にご鑑賞ください。

(山川 信彦)



長崎県美術館

長崎県美術館のHP

<http://www.nagasaki-museum.jp/>